



Vリフトへのアプローチはこんな具合に行う。



Vリフトにボートを載せ、上架した状態。



ボートの底部は水面から完全に離れている。



ソーラーパネルの設置で電源供給もOK。



船外機も完全に水面から離せる。



下架状態では船外機はこのような状態に。



エアータンク自体がフェンダー代わりとなる。

されずに、自由な時間に出航ができること。デメリットは常に水上に置かれるため、船底にコケ類や貝類などが付着しがちなので、それらを除去したり船底塗装などのメンテナンスが必要となる。かたや陸上保管であれば、船底へのメンテナンスが水上係留艇ほど必要なく、艇体自体の傷みも少ない。だが、ボートの出し入れに必ず上下架を要するため、その時間や費用などが煩わしくなってしまう。どちらも一長一短があるのは仕方がないのだが、両方の「イトコドリ」ができたならなあ、なんて考えてしまうところである。

そんな「イトコドリ」ができる画期的なアイテムが登場したのでご紹介しよう。それはレスコ サンストリーム・Vリフト (RESUCO SunStream V-Lift) というアイテムである。これはいわゆるボートリフトといわれるもので、言ってみれば「浮きドック」のようなもの。水上の係留スペースにVリフトを設置し、その上にボートを載せるような感じで使用する。係留時はVリフトを浮かせることでボートは完全に水面から離れ、貝類やコケ類当の付着から守ることができる。ボート使用時はVリフトを沈めることでボートは水面に浮き、思い思いの場所

に向けてスタートする、こんな具合に使用できるのだ。

Vリフトの上下架は、本体への空気の注入で行うが、そのスピードが速いことが大きなメリットである。リフトスピードは降ろすのに約75秒、上げるには120秒であり、これは従来型のボートリフトにくらべ約2倍の速度だという。ボートサイズは約3mから使用でき、使用可能な水深は約1mとしている。Vリフトの素材はポリエステル素材を使用しており、塩水、淡水両方での耐久性にも優れている。従来の空気圧変異型ボートリフトで問題視されていた空気漏れ